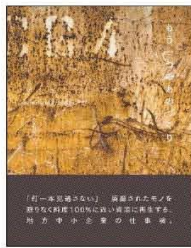


生活

# ゴミを宝にする仕事魂

リサイクルが大切—と思っ  
ていても、普通気にする  
のは分別するまで。集まっ  
たゴミを、誰がどうやって  
資源に生まれ変わらせてい  
るのか？ 最先端の技術、  
不断の努力、そして職人魂  
が注がれる資源再生の現場  
取材した写真集『もう一



つものづくり』（赤々  
舎）＝写真＝が刊行され  
た。一読すれば、ゴミの山  
が「宝の山」に見えてくる  
はずだ。

（篠原知存）

## 捨てた「次」見せる

「私自身の反省も込めて  
いうのですが、不用品が目  
の前から消えてくれたら、  
普通はその先のことを考え  
たりしないですよ」

写真集を企画、出版した  
クリエイティブディレクタ  
ーの水原晶代さん(56)は、  
リサイクルや持続可能社会

## リサイクルの現場を描く写真集



写真集『もう一つのものづくり』（赤々舎から）

という言葉が一般的になっ  
ても、実情はまだ理解され  
ていないと指摘する。  
環境省によると、毎年使  
用済みになる小型電子機器  
は約65万トで、そこに含ま  
れる有用金属は約28万ト  
（約844億円分）と推計  
される。いわゆる「都市鉱  
山」だが、小型家電リサイ  
クル法の対象品目の回収率  
はまた1割程度。資源がう



水原晶代さん

まく回収できているとは言  
い難い状況だ。

「『次』が見えれば、そ  
れぞれの行動が変わるかも  
しれない。そう思って出版  
を企画しました」

## 資源を作り出す

本書に登場するのは岡山  
市の総合リサイクル企業、  
平林金属（ヒラキン）。平  
成27年に立ち上げた市民参  
加型の資源集積プロジェクト  
「えこ便」でグッドデザ  
イン賞を受けるなど、業界  
で注目を集める会社だ。高  
品質な再生資源は海外にも  
顧客層を広げている。

「ときどき誤解されます  
が、リサイクル業は解体す  
る過程がお金になるわけで  
はなく、売買されるのは資  
源なんです。『商品』なの  
で質の高さを目指すのは当  
然のこと」

鉄、銅、アルミニウム、  
プラスチック…さまざまな  
再生資源の純度を限りなく  
100％に近づける。「冷  
蔵庫を冷蔵庫に戻すのが究

極のリサイクル」と位置づ  
ける同社には、当然のよう  
に技術開発部もある。  
「リサイクルというこ  
『処理』という言葉がよく  
使われますが、ヒラキンの  
工場を見て、働いている人  
を知らればそうじゃないとわ  
かる。撮影した写真家の百  
々武さんも『これはものづ  
くりですね』と言っていま  
した」

## 地球に良い仕事

百々さんのカメラは、廃  
棄物の選別から資源産出に  
至るまでのさまざまな工程  
を美的にとらえる。要所で  
の手作業など人の匂いも印  
象的。仕事を極めようとし  
ると、最後の精度は機械任  
せでなく人に頼らざるを得  
ない。社員たちの職人的な  
姿勢も伝わってくる。

「世の中にはいろんな  
仕事があるんですが、やれ  
ばやるほど、人のためにな  
って地球のためになる。そ  
んな仕事って、あんまりな  
いと思っんですよ。ものす  
ごくくめずらしいと思いま  
す」

新しい自動車を1台買え  
ば、1台が不要になる。持  
続可能な社会のために、自  
分たちにできることがある  
とすれば…。消費について  
考えさせてくれる好著。